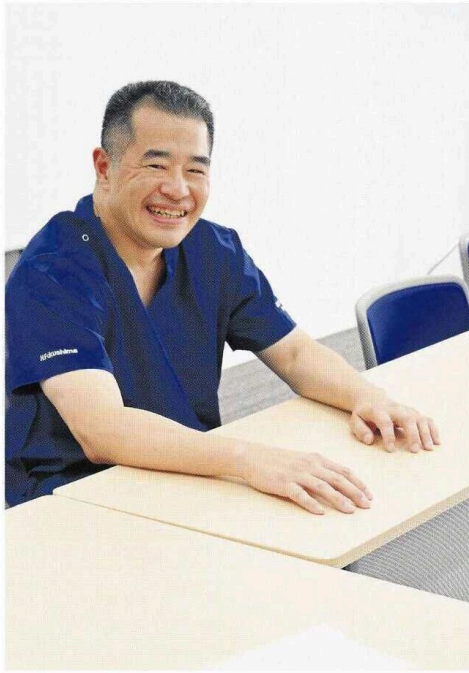


北星記念病院に常勤医

北見の北星記念病院（中央三輪2）に、循環器内科の常勤医として福嶋央医師（52）が着任した。同病院は2022年秋以来常勤医が不在で、非常勤医師が診察していたため、きめ細やかな対応が難しくかった。福嶋医師は「自分の経験生かし、重症患者を治したい」と意気込む。



北星記念病院に新たに赴任し、意気込みを語る福嶋央医師

循環器内科医 2年ぶり不在解消

福嶋医師「専門生かす」

福嶋医師は東京都出身で、名古屋大学医学部を卒業。愛知県内の病院や浜松医療センターを経て、昨秋に渡島管内八雲町の八雲総合病院に着任した。

八雲では専門医が少ない中、「循環器にとどまらず総合的に診断する必要がある」と振り返る。人口規模が大きく、専門技術を生かせる環境に移りたいと考え、北星記念病院での勤務を決めた。

8月の着任から1カ月で、カテーテル手術などを行う。オホーツク管内は、唯一の3次医療機関である北見赤十字病院（北見日赤）に患者が集中しがち。手術の待ち時間が長くなることも多く、北星記念病院の松岡慶太院長は「新たな常勤医師は地域にとってもプ

ラス」と話す。

福嶋医師は、北見の患者の傾向について「動脈硬化が強く出ている」と分析。塩分の高い食事や車移動が多いという運動不足などが原因として考えられるという。

今後は血管が詰まりやすい透析患者に、管を入れて血流を確保するシャント手術にも力を入れた考え。北見市内では高齢化によって閉院する個人病院が増えており、福嶋医師との協力を期待する透析クリニックも多い。

「気になる症状があれば、循環器にとどまらず診断できるよう努めた」と話す。初めて暮らすオホーツクでは、休日に自然散策や釣りを楽しむつもりだ。

（水野薫）